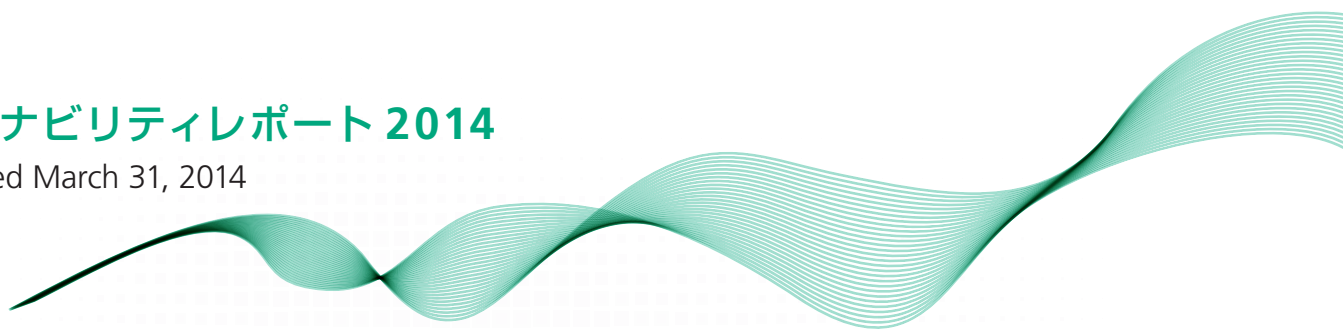


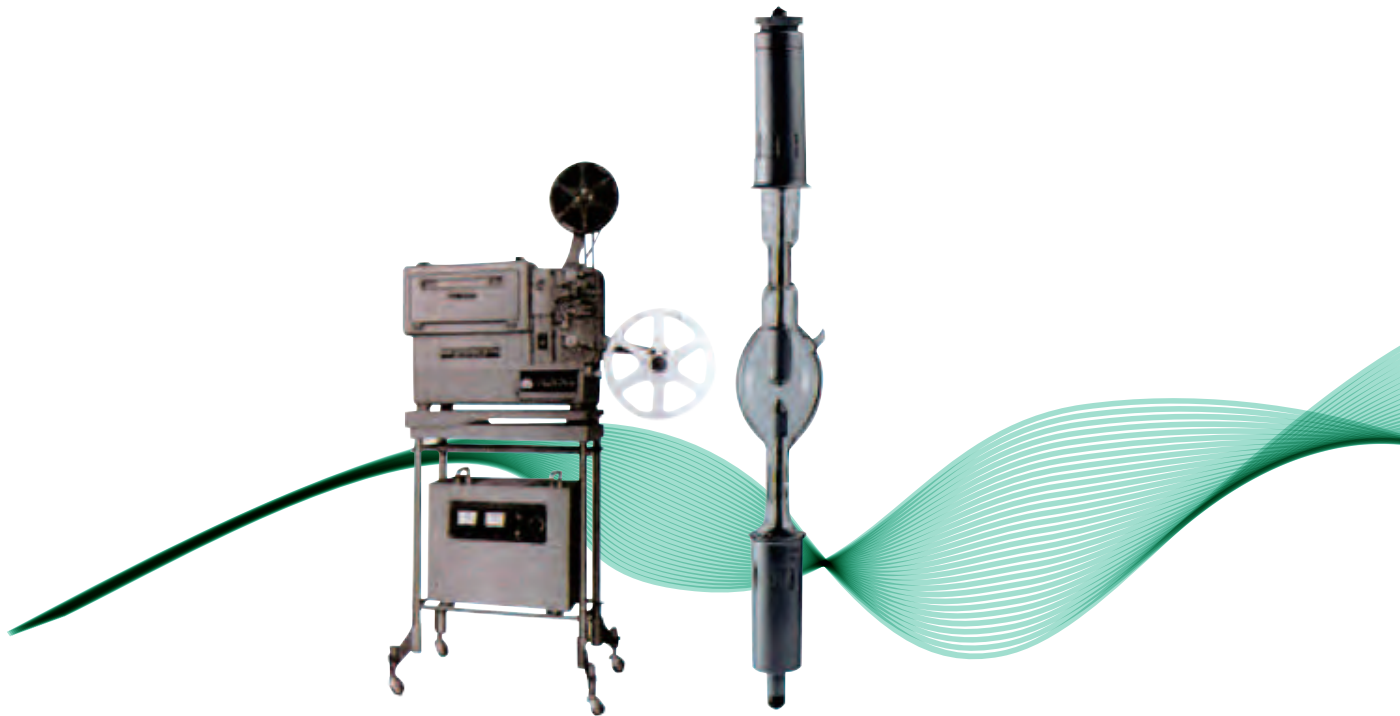
# サステナビリティレポート 2014

Year ended March 31, 2014



# 1964年、光の未来はじまる。

「光」を「あかり」としてだけでなく、「光化学エネルギー」として、「熱エネルギー」として利用することで、新しい光市場を創造する。1964年の創業から、ウシオが信じたのは、光の無限の可能性でした。



創業当時ウシオが未来を託した、小さな太陽と呼ばれたクセノンショートアークランプ。

「カラー映画はクセノン」を映画の常識にした製品。

(左は当時のクセノン映写機)

## 編集方針

「サステナビリティレポート2014」の作成にあたっては、経営とCSRの課題との関連性をより高めた報告とするように心がけました。また、詳細報告であるCSRサイトやオンラインアニュアルレポートなどへの入り口となるような連携をめざし、多くのステークホルダーの方に読みやすいよう編集を行なっています。

## ①CSRサイト

ウシオグループの詳しいCSR報告については、「CSR／社会・環境」をご覧ください。

[Web http://www.ushio.co.jp/jp/csr/](http://www.ushio.co.jp/jp/csr/)

## 目次

## C2 企業理念

## 04 トップメッセージ

08 特集「見えない光」が面白い。  
10 「真空紫外線」で環境問題にも答えを

## 12 ウシオのCSR

14 **ガバナンス**コーポレート・ガバナンス/  
コンプライアンス16 **人**

社員とともに

18 **品質**お客さま・  
お取引先さまとのかかわり20 **環境**

環境への取り組み

22 **社会**

社会とのかかわり

## 24 事業概況

25 第三者意見  
第三者意見を受けてUSHIO GROUP  
企業理念

## ①

会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を  
一致させること。

## ②

国際市場において  
十分競争力のある製品・サービスを提供すること。

## ③

優れた製品、新しい研究開発を通じ  
進んで社会に貢献すること。

## ④

オープンで自由な企業活動を通じ競争力を高め  
安定利潤を確保すると共に企業の社会的責任を果たすこと。

CSRに対するウシオグループの考えは、全社員のあらゆる活動の根源として「企業理念」にも表されています。「ウシオが社員の英知によって成長し、一人ひとりの人生の中になくはない生きがいのような存在になっていけたら・・・」との思いのもと、創業翌年の1965年には「四つの基本方針」が作られ、時代に合わせた改訂を経て現在の形になりました。

## ② オンラインアニュアルレポート

ウシオグループの詳しい事業報告については、「オンラインアニュアルレポート2014」をご覧ください。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2014/>

## 報告対象範囲

期間：基本的に2013年4月1日～2014年3月31日までの活動内容についてご報告していますが、それ以前より活動している内容や、一部2015年3月期の取り組みも含めています。

組織：ウシオ電機全事業所および国内外のグループ会社

# 2014年、次の50年に向かって。

2014年4月1日、ウシオは創立50周年を迎えました。1964年に生まれた小さな「光」は、半導体や液晶、映像や照明、医療や環境など、さまざまな分野であかりとしてエネルギーとして大きく成長してきました。そして次の50年に向かって、光のプロフェッショナルとして、光の可能性を追求し、地球と人々の未来を照らす新たなソリューションを提供していきます。

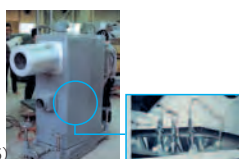
●「私たちの行動指針10」作成

●ISO14001 認証取得 (播磨)  
●ISO9001 認証取得 (御殿場)

●ISO9001 認証取得 (播磨)

## 1964年

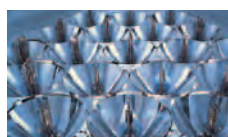
## 1990年



(1965)  
東京大学向けソーラシミュレータ  
東大宇宙航空研究所に納品された  
ソーラシミュレータ第1号



(1972)  
汚泥燃焼処理装置 / 廃液廃油焼却装置  
公害防止分野に進出



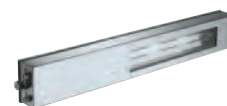
(1975)  
人工衛星試験用大型ソーラシミュレータ  
宇宙開発事業団 (現JAXA) に納品  
政府のサンシャイン計画にも参考



(1968)  
IC露光装置「ユニマスク」  
プロジェクション方式を世界で初めて実用化  
現在の「UXシリーズ」の原点



(1974)  
紫外線水殺菌装置  
低圧UVランプを内蔵した紫外線水殺菌装置



(1982)  
紫外線強力殺菌装置「ユニライザー」  
殺菌性能を従来比10倍に高めた世界初の量産化タイプ。食品包装材・容器殺菌、他に無菌純水用として開発



(1971)  
ハロゲン標準電球  
CIE (国際照明学会) 大会で認定  
ウシオの光が世界標準に



(1974)  
紫外線硬化・乾燥装置「ユニキュアシステム」  
光で「固める」ユニキュアシステム。ウシオのベストセラー製品。当初はラベルやシールの印刷用途向け



(1994)  
エキシマVUV / O3洗浄装置  
光によるファインクリーニング装置。水や薬品によるウェット洗浄、超音波や低圧UVランプによるドライ洗浄に比べても、十倍以上の洗浄速度と洗浄度、1/3の消費電力、低温処理などを可能に

	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
CSR中期計画	CSR取り組みの基盤づくり、情報収集	CSR取り組み課題の深掘り	経営戦略とCSR課題の融合の完了

- 統合ISOの更新審査
- 紛争鉱物方針公表(調査実施)
- 国連グローバルコンパクトに署名
- 環境委員会をCSR委員会に改称
- CSR行動計画
- ISOの統合化審査
- 広域認定半導体・液晶露光用ランプ回収事業開始
- 統合ISO(品質・環境)のキックオフ
- 映画館用ランプ回収リサイクル開始
- 「グループ企業理念」制定
- サステナビリティレポート発行開始(環境レポートからの変更)
- CSR部設置

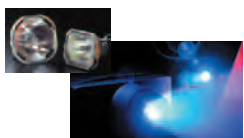
ウシオの環境活動	第一期環境行動計画	第二期環境行動計画	第三期環境行動計画	第四期環境行動計画
----------	-----------	-----------	-----------	-----------

- ISO14001 認証取得(全社)
- 環境レポート発行開始
- 事業所リスク巡回の開始
- 生産性向上会議への環境課題組入れ
- 環境委員会発足
- マテリアルフローコスト会計導入
- リスク管理規程制定
- 電力モニターシステム導入
- 廃棄物計量システム導入(播磨)
- 環境マネジメント情報システム導入
- カンパニー制から事業部制へ移行
- ウシオ電機グリーン調達基準制定

2000年

2010年

2014年



(1998)  
液晶プロジェクタ用「NSHランプ」  
DLP®(デジタル・ライト・プロセッシング)方式プロジェクタの大画面化や画質向上に対応。超高圧UVランプをベースに開発した高輝度光源



(2008)  
水銀レス蛍光ランプ「XEFL®」  
世界初、紫外線領域から必要な発光波長が選択できる水銀レス光源



(2010)  
半導体パッケージ基板用モジュラー型ステップ「UX5」シリーズ  
1999年開発のUX-5を、現行世代の要求性能までグレードアップ。将来、必要な機能だけをアップグレード・カスタマイズ可能



(2013)  
血液分析装置「ポイントリーダー®」  
日本初、血清フェリチンの定量分析をイムノクロマト法で実現

売上高  
1,578億円

連結従業員数  
5,470名



(1999)  
デジタルシネマプロジェクタ  
米国初の上映作品は「スターウォーズ」  
現在ウシオの市場シェアは40%\*



(2008)  
省エネ集魚灯「U-BEAM.eco」  
エコプロダクツ大賞の農林水産大臣賞、地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞



(2011)  
OA機器原稿読み取り用LEDモジュール  
モジュール1本あたりわずか1~2個のLEDチップ搭載で、従来の希ガス蛍光ランプと同等の明るさを実現。消費電力は75%削減



(2013)  
光配向装置  
光による非接触でクリーンな配向制御を行い、歩留まり・製品性能が大幅に向上



(2008)  
エキシマライト光線療法機器「セラビームUV308®」  
エキシマライトにより、従来よりも効果の高い308nmの紫外線を、乾癬、白斑、アトピー性皮膚炎などの患部に照射して処置する紫外線皮膚治療器。紫外線皮膚治療器としては世界で初めて、エキシマフィルターを搭載し、健康な皮膚へのリスクを低減し患部に対し効果的かつ、安全に照射治療を行なうことが可能。



(2009)  
LED搭載スポットUV照射装置「SPL-1」  
1972年から続く集光式紫外線照射装置「スポットキュア」ではじめてLED光源を搭載



(2012)  
エキシマ光照射器「Min-Excimer」  
卓上でのエキシマ光実験を可能にしたA5サイズのエキシマ光照射器。簡易かつ柔軟に親水化や改質などのエキシマ光実験を可能に

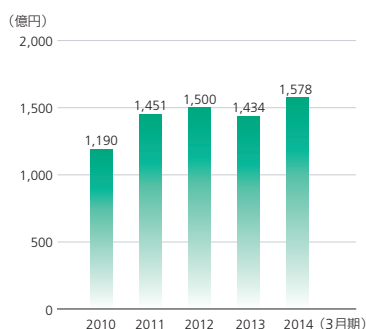
\*シェアは2014年3月末現在、自社調べ

# ウシオは社会の課題を解決する光関連事業を推進し、社会とともに成長します

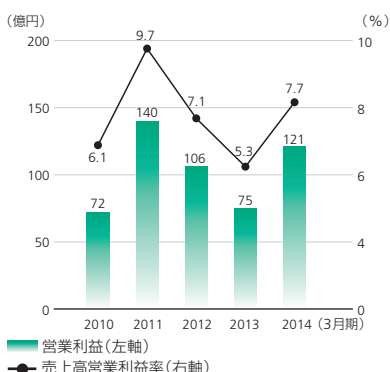


2014年10月1日付で、ウシオ電機代表取締役社長に就任した浜島健爾です。1964年に生まれたウシオの小さな「光」は、さまざまな産業分野においてあかりとして、エネルギーとして大きく成長し、本年4月50周年を迎えることができました。このたびウシオ電機の陣頭指揮を執るにあたり、これまで同様、今後も「光」を切り口とした最先端分野に注力することで社会的課題解決に貢献することを目指し、透明性の高い経営で皆さまのご期待に応えていきたいと考えています。

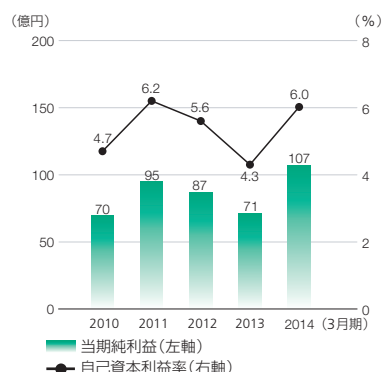
売上高



営業利益 / 売上高営業利益率



当期純利益 / 自己資本利益率 (ROE)



## 当期の業績

当期は、売上高1,578億円、営業利益121億1千万円、経常利益159億4百万円、当期純利益107億7千万円で、光源セグメント、装置セグメントのいずれも増収増益となりました。

## 中期経営計画

本年4月に発表した3カ年の中期計画では、2017年3月期の売上高目標を当期比およそ30%増収の2,100億円、営業利益率10%としました。

この目標を達成するため、エレクトロニクス、映像、メディカル・ライフサイエンス市場における以下の分野を成長ドライバーと位置付け、新規市場開拓およびトータルソリューション事業のより一層のスピードアップを図ります。また、製品のみならず研究開発から販売・物流までオペレーションのあらゆる分野にイノベーションとスピード最優先の経営を徹底し、優れた技術に裏付けられた質の高い製品とサービスによって地球社会に貢献する企業としての信頼を得たいと考えています。

この目標の実現に向けては、イノベーションの源泉である全社員の感性、想像力、発想、情熱を最大限に引き出すための経営システムと職場環境の整備が極めて重要であると考えており、喫緊の経営課題として全力で取り組んでいきます。

## シネマ向け新事業と新光源

映像装置分野においては、映画館で高品質な音響を提供するオーディオ事業に新規参入し、トータルソリューションビジネスをさらに推進していきます。また現在、半導体レーザー(LD)光源搭載プロジェクトへの開発投資を積極的に行なっています。LDは環境性能に優れているうえ、ランプ比較で色彩領域が格段に広く、見る人に感動を与え、映画館や観客にとってもメリットが多く、将来的には各国に普及することが期待されています。

## ディスプレイの高精細化による光学装置の拡大

スマートフォンやタブレット端末向け液晶パネル市場に対して、当期より光配向装置の販売を開始しました。ウシオの光配向技術は液晶への光の作用を利用しており、従来技術とは一線を画すものです。きわめて歩留まりが高く、省エネかつ高精細で高品質なパネル製造を可能にします。半導体・電子部品分野においても、今後、成長が期待されるハイテク機器や自動車、医療関連機器向けに、次世代を見据えた開発投資を積極的に進めていく方針です。

## 固体光源の早期事業化を推進

光源事業については、UVやVUVによる除菌、殺菌、脱臭や脱硝などの環境分野へ積極的に取り組むほか、設計事務所などと共同で付加価値の高いLED光源を

### 中期計画 2017年3月期達成目標

	2014年3月期(実績)	2015年3月期(計画)	2017年3月期(計画)
売上高	1,578億円	1,700億円	2,100億円
営業利益	121億円	140億円	210億円
営業利益率	7.7%	8%	10%
自己資本利益率(ROE)(%)	6%	—	8% 目途

提供していく計画です。

また、固体光源事業は事業化を加速するため、2014年4月1日から新たな組織として独立させました。今後、早期事業化、製品化を目指したさらなる開発投資を実施していきます。

### バイオ・メディカル事業も独立事業部へ

バイオ・メディカル事業も新たに組織として事業部を独立させ、成長を加速させる方針です。医療用製品は薬事認可に時間を要することもあり、目下、各国での薬事認可の取得を進めつつ、大学病院などとの産学官連携を強め、試薬開発など一層の促進を図っています。今後は、映像画像、エレクトロニクスと並ぶ事業規模を目指して、積極的な資源投入を実施していきます。

### グローバル企業ウシオとCSR

今年創業50周年を迎えたウシオは、いまや国内外に50を超えるグループ会社を擁し、連結売上高の8割近くを海外顧客への売り上げが占めています。また、グループ社員5,470名のうち半数以上の3,089名が海外グループに籍を置き、経営そのものがグローバル化しています。

私自身1990年にウシオアメリカのCFOとなって以来今回の社長就任まで、同社および米国・カナダのクリスティの経営陣として長年海外法人を率いてきました。

この経験も踏まえながら、ウシオがグローバル企業として多種多様な地域と人々に対し採用しているグループ統治の考え方と仕組みについてご紹介します。

### グループ経営哲学「連峰経営」に基づく組織統治

ウシオ電機は、創業以来「連峰経営」というグループ経営哲学のもとに歩んできました。これはウシオ電機単体を頂点とするグループ像ではなく、グループを構成する各社が連峰を築き全体最適を目指す姿であり、自助独立の精神とそれぞれの多様性を尊重しながら価値観を共有していくというものです。そして現在ウシオは、この哲学のもと以下のような組織統治の仕組みを構築しています。

グループ経営協議会に設けられたCSR関連セッションでは各社のトップが、グループコミュニケーション委員会では各担当部門が、そしてグループ社内報を通して全社員が、企業倫理やCSRの基本的考え方などを情報共有できる体制を整えています。そのうえで、地域の文化・歴史などの背景や実情に則した日々のおペレーションが実施されるよう、グループ各社の独自性、独立性、自主性に基づく施策を尊重しています。

また、この仕組みの有効性を担保するため、ウシオ電機には社長である私が委員長を務めるCSR委員会を設け全社的な方針を決定するほか、下部組織として課題別



委員会を設置して各事業部やグループ各社との連携を図っています。

### グループ各社が多様な社会的ニーズに応える

社員の生活の質向上を目的に、香港の現地法人では社員向け独身寮を家族社宅に改装したことで、ご家族を含むより多くの社員が利用できるようになりました。また、他社に先駆け社員食堂を作ったことで離職率が下がるなど、現地のニーズを理解することで社員の業務環境の整備を進めました。私が長年在籍した北米の法人では、地域のボランティア団体や財団などに協力するという社会貢献と地域コミュニケーション活動があります。毎年多くの従業員がそれらの活動に積極的に参加するほか、企業としての援助にも力を入れています。

一方日本ではまた別の課題が存在します。労働力人口減少への対応から、女性の社会参加を推進するという政府の方向性が打ち出されました。当社でも両立支援制度や育児休暇制度、また性別に捉われない管理職への登用などの諸施策を一層推進することで、今後女性の活躍の場を増やしていきたいと考えています。

### 社会の課題を解決する光関連事業を推進

当期ウシオ電機は、社会的課題を解決する光関連事業をさらに加速するため、固体光源事業とバイオ・

メディカル事業をともに新組織として独立させました。現在はそれほど大きな規模ではありませんが、近い将来ウシオの第3の収益の柱に育てていく計画です。

光には未だ知られていない多くの可能性があると考えられており、大いなる可能性が秘められています。私たちは光技術のリーディングカンパニーとして、最新の研究成果および従来の知見をニーズに結びつけ、光の新たな用途を開拓していきます。すでに、喫緊の課題に対する商品を次々と開発しつつあり、その一例として、日本の高品質な生鮮農産物を大量に輸出可能とする光の装置や、大気汚染物質を極めて効率的に分解する光の装置について本レポートの特集にてご紹介していますので、ご一読いただければと思います。

創業50周年という節目にあたり、当社はこれまで同様これからも「光」のソリューションを提供していくことで社会に貢献し、社会とともに成長し続けたいという思いを皆さまにお伝えし、私の社長就任の抱負に代えたいと存じます。今後とも、一層のご支援を賜れば幸いです。

2014年10月

代表取締役社長・CEO

浜島健爾

# 「見えない光」がおもしろい。

「真空紫外線」をご存知でしょうか。太陽光に含まれているのですが、空気中を通ってくる間に酸素に吸収されてしまうため、地上には到達しない光です。真空でしか存在できないことからこの名がつけました。光の中ではもっとも波長が短くエネルギーの大きいこの真空紫外線には、さまざまな光化学反応、生物反応を引き出す力があることがわかっており、半導体製造や液晶パネルの光洗浄など多くのシーンで活用されています。その光がいま、環境や農業、エネルギーなど地球規模での課題を解決する答のひとつとして、注目を集めています。

## 見えない光も植物を育てる？

植物の生育には光が大きく関与し、波長域によって植物に与える影響が異なります。赤外域の光は光合成への影響がもっとも大きく、紫外域の光は葉の正常な形態形成に必要とされています。また最近の研究では、波長320nmの紫外線(UVB)は、リーフレタスの抗酸化酵素であるアントシアニンの含有量を増やす光であることがわかっており、栄養価の高い作物を育てることができます。一方、植物の生育時期によっては、同じ波長域の紫外線が成長を阻害することもわかっています。

不思議ですね。それでは、地表には届かない波長200nm以下の真空紫外線で、一体、何ができるのでしょうか。

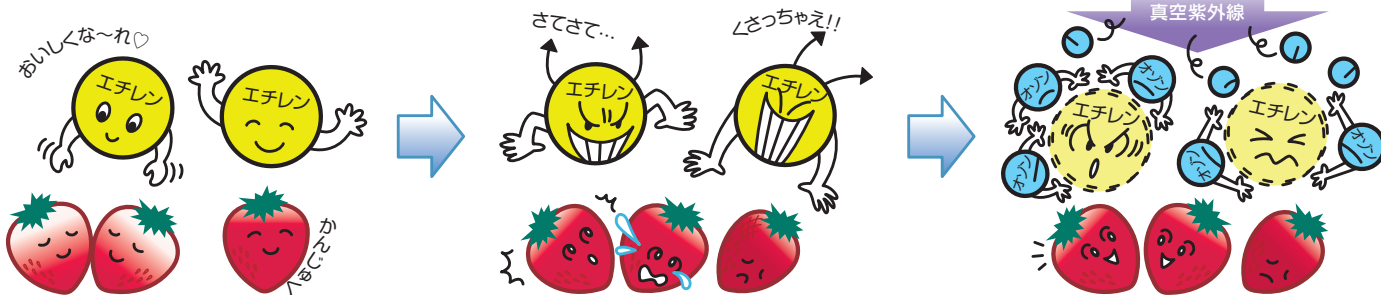
## 大量のイチゴを輸出したい！

日本のイチゴはたいへん美味しく、アジアを中心に高値で取引される人気の果物です。しかしイチゴは鮮度が落ちやすい上にカビが発生しやすく、空輸以外の手段がありません。これではコストがかかる上、輸出できる量にも限りがあります。そこで現在、もっと大量のイチゴを海外の消費地に届けられる船

エチレンガスはイチゴの熟成を促します。

ところが!熟したイチゴを老化させる作用もあります。

そこに、真空紫外線によってオゾンが発生させると…



オゾンはエチレンガスを分解するだけでなく、カビの抑制にも効果があり、このW効果でイチゴの鮮度を保ちます。

便を使う方法が検討されています。ポイントは、いかにイチゴの追熟を防ぎ、カビの発生を抑えるか?ここで活躍するのが、「真空紫外線」と「オゾン」なのです。

### オゾンでアンチエイジング!?

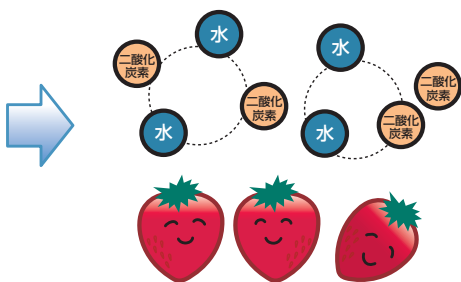
果物は「エチレン」という成熟ホルモンの作用で成長していきます。しかし収穫したあとも追熟を続けるため、エチレンガスが放出し、今度はそれが老化(腐る)原因になってしまうだけでなく、放出されたエチレンガスはまわりの果物まで傷めてしまうのです。

成長するためには必要なものの、熟した後には老化の原因となってしまうこのエチレンガスを分解し、影響を止めるのがオゾンです。オゾンにはエチレンを水と二酸化炭素に分解するはたらきがあり(下図参照)、このオゾンで果物が保管されている船便のコンテナに充填させることで、コンテナ内の果物がエチレンによって老化するのを防ぎ、鮮度を維持することができます。そして、そのオゾンが発生させるために必要なのが真空紫外線なのです。

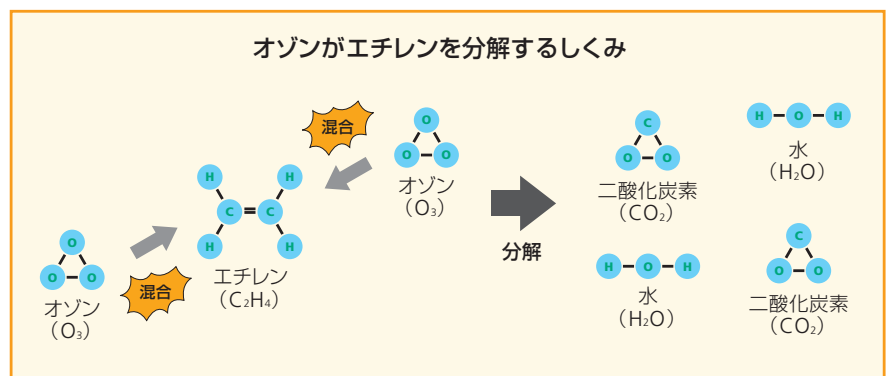
### 真空紫外線でクリーンなオゾンを生成

オゾンが発生させる方法はいくつかあり、現在もっとも一般的に使われているのは放電によるものです。ところが、放電によるオゾン生成では人体に極めて有害である窒素酸化物(NOx)も発生してしまいます。そして、もうひとつの方法が紫外線を酸素に照射する方法です。この方法であれば、クリーンなオゾンが発生させられるのですが、紫外線の中には、オゾンが発生させる波長域とオゾン分解する波長域とが混在するため、従来の紫外線ランプは非常に効率の悪いものでした。そこでウシオが開発したのが、オゾンが発生させる波長域(172nm)だけをピンポイントで照射できる真空紫外線ランプです。すでに果物業社や船舶業社と共同で、このランプを使用したコンテナ搭載用オゾン発生装置の開発・実験をスタートさせています。もうすぐ、ウシオの光技術で世界中の人々に日本のみずみずしいイチゴをたくさんお届けできるかも知れません。

オゾンがエチレンガスを水と二酸化炭素に分解。



オゾンがエチレンを分解するしくみ



# 「真空紫外線」で環境問題にも答えを

いま世界中で大気や土壌、水質の汚染が深刻な問題となっています。その一方で、汚染対策の技術も着々と進歩し続けており、ここにも、ウシオの真空紫外線の活躍するフィールドがあります。

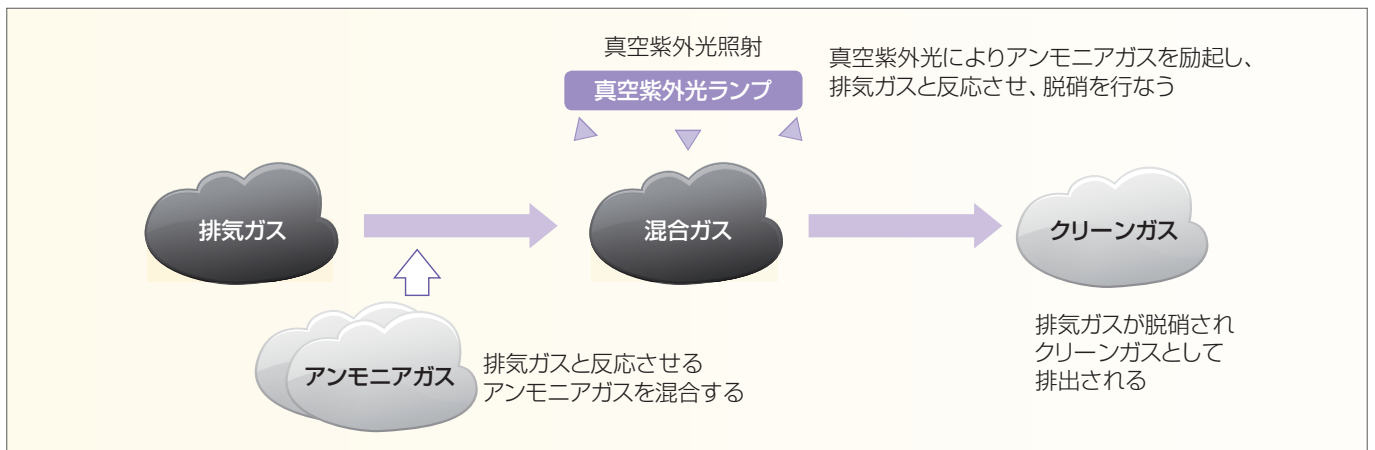
## 光化学スモッグの原因物質「NOx」を分解

大気汚染物質にはさまざまな種類がありますが、なかでもNOxは光化学スモッグや酸性雨の原因となる物質で、自動車や船舶などのディーゼルエンジン、火力発電所、ゴミ焼却場などから発生します。この有害なNOxを無害な窒素や水蒸気に分解するのが「脱硝」と呼ばれる技術です。これまでは高価な消耗品である触媒を使ったり、900℃以上の高温な排ガスにアンモニア処理を行ったりする必要がありましたが、真空

紫外線をNOxとアンモニア、酸素が混在する排ガスに直接照射することで、高価な触媒を使用することなく、しかも常温でNOxを無害化することができます。この新技術\*は今後、排ガスが低温であるため従来技術の適用が難しかったディーゼルエンジンなどへの応用が期待されています。

\*ウシオ、岐阜大学、株式会社アクトリーが共同で開発。

真空紫外光による脱硝イメージ





## その焼却灰、本当に安全?

雑多な材質のゴミを焼却して残った灰(飛灰)には、雨や地下水に溶けやすい塩化鉛や青酸化物が残ってしまっており、その多くは埋め立てによって処理されています。しかし、鉛毒で知られる鉛は、少量でも体内に摂取すると貧血や神経障害を引き起こすことがあるため、土壌や水質を汚染しないように、金属を溶けにくくする薬剤を混合したり、飛散しないシートをかぶせつつ、数年から数十年間も自然放置して鉛が酸化するのを待つといった処置がなされてきたのですが、より効率的で安全・安心な処理方法が模索されています。

## 鉛も水銀も真空紫外線で処理できる

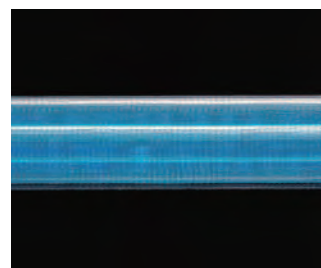
現在、「焼却灰中の鉛にオゾンを反応させ、水に溶けにくい酸化鉛に変える」という研究が進められています。また人体に有害な水銀の新たな処理方法についても研究が始まっており、いずれも、真空紫外線によるオゾン生成がもっとも有望視されています。それは、人体や自然環境に有害な物質を発生させずに、クリーンなオゾン生成ができる真空紫外線が、環境問題を解決するのにもっともふさわしいと考えられているからなのです。

## CO<sub>2</sub>削減も真空紫外線で!?

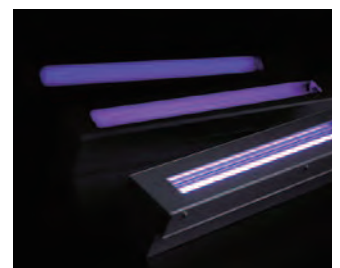
真空紫外線の中には、オゾンを発生させる波長域より、もっと短い波長域で、特徴的に二酸化炭素を分解する光の存在が知られています。これを使って二酸化炭素を酸素と炭素に分解し、酸素は大気中に、炭素はエネルギーとして利用できるのではないかと…夢のようなお話も聞こえてきます。けれど石炭は、植物が二酸化炭素を取り込んで光合成によって成長し、長い時を経て姿を変えたものです。あながち夢とばかりも言いきれません。

ウシオは、光には無限の可能性があり、人類が抱える問題を解決する答えのいくつかは、光にあると考えており、これからもその可能性に挑戦し続けていきます。

### ウシオの真空紫外線ランプ



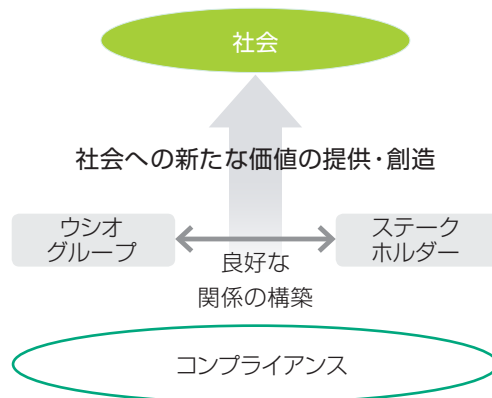
エキシマランプ



UV-XEFL

# ウシオのCSR

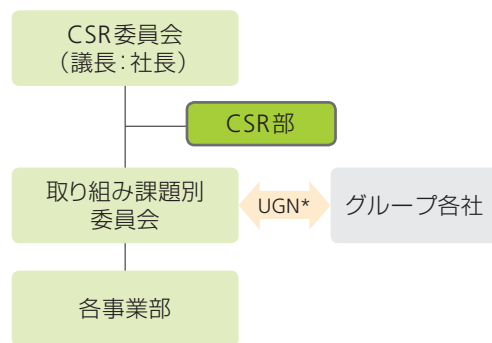
## ウシオの目指すCSR\*



「コンプライアンス\*」や「社会貢献」「環境保全活動」などは、企業市民として当然取り組むべき課題であり、全ての活動の土台であるとウシオグループでは考えています。その上で、さまざまなステークホルダー\*の皆さまと良好な関係を構築し、新たな価値の創造と提供を行なうことにより、進んで社会に貢献する企業でありたいと考え、取り組みを進めています。

## CSR推進体制

### CSR推進体制図



ウシオ電機では、社長を委員長としたCSR委員会を設置し、CSRへの取り組みにかかわる全社的な方針を決定しています。CSR委員会で決められた方針を具現化するために、必要に応じてCSR委員会の下部組織として取り組み課題別の委員会を設置し、具体的な取り組みについて議論しています。2013年10月に開催された第21回CSR委員会においては、現状の課題と今後の取り組みが確認されました。

また、2014年3月開催のグループCSR会議においては、世界各地の拠点から出席したグループ各社のトップから多岐にわたる社会的要請について報告がなされるとともに、それぞれの課題を全体で共有化し、グループCSR計画として具体的な活動を行なっていくことが確認されました。

## 国連グローバル・コンパクト\*10原則の支持



Network Japan  
WE SUPPORT

2010年10月、国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明しました。また、国連グローバル・コンパクトのローカルネットワークである、「国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク」にも加盟し、多くの加盟企業やNGOと共に各CSR要素の推進のため、必要な具体的施策の情報共有、および各企業での充実を図る分科会活動に積極的な参加を継続しています。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csrprogram> (ウシオのCSRの考え方)

## CSR中期計画

2009年ウシオはCSR部を設置し、2016年までにウシオの経営戦略とCSR課題を融合させることをめざしたCSR中期計画を策定しました。このCSR中期計画は7年間で3つのフェーズからなり、第1フェーズ(2010～2012)では「CSRの取り組みの基盤づくり」に注力し当初目指した目標を達成することができました。現在は第2フェーズ(2013～2014)にあり、「CSRの取り組み課題の深掘り」へと取り組みを進めています。

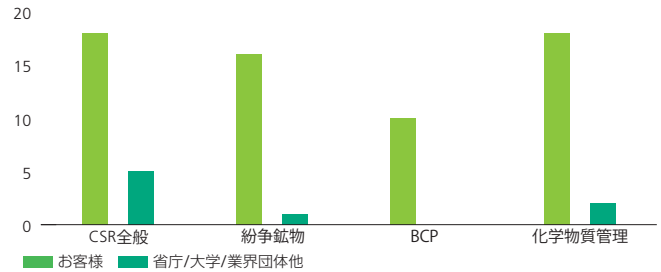
### 第2フェーズ

現在進行している第2フェーズにおいては、第1フェーズで構築した活動基盤を有効に機能させることで、実際に各事業部やグループ会社の事業とCSR的要素とを一体化させるPDCAサイクルの端緒を拓きました。具体的には、CSR委員会の委員長である社長の指揮により、2013年3月期は事業の中でのCSR推進を強化していくため、CSR行動計画で原則を示し、各事業部・部署の状況に合わせた形で事業計画への落とし込みを図りました。各部署からは人材育成や顧客満足、ダイバーシティ、また環境対応製品など多くの施策や計画が上がり、検討されました。

2014年3月期は、グループ各社におけるCSR課題についてすべてのグループ会社や事業所に対してアンケートを実施しました。このアンケートを皮切りに、今後はグループ全体を対象としたステ

ークホルダーエンゲージメントをさらに本格化していく計画です。なお、今回のアンケートの集計結果は以下の通りです。

問い合わせのある調査依頼(ウシオグループ)



### CSR行動計画

CSR行動計画の策定に際しては、CSR委員会をはじめとする関連機関でISO26000\*の7つの中核主題や複数のガイダンスおよびガイドラインを考慮しながら、当社事業活動におけるCSR的要素をさまざまな角度から検討しました。その結果、ウシオグループの課題を「ガバナンス」「人」「品質」「社会」「環境」に分類して5つの柱とし、それぞれの項目をさらにブレイクダウンした取り組み課題を設けました。現在このCSR行動計画が、ウシオのCSRのフレームワークを示すと同時に、各事業部やグループ会社が事業計画を作成する場合の考え方の基盤となっており、年次の行動計画は、聞き取り調査の結果を踏まえ、毎年改定しています。

### CSR行動計画

5つの柱	取り組み課題	2015年3月期の行動計画
<b>ガバナンス</b> グローバルな企業活動において、国際基準まで含めたコンプライアンスの確立や、CSRに関する情報公開・ステークホルダーコミュニケーションに関する取り組みとガバナンス体制の強化・発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内浸透</li> <li>内部統制*</li> <li>グローバルな取り組み</li> <li>BCP* (事業継続計画)の策定</li> <li>法令遵守・倫理</li> <li>情報セキュリティの強化</li> <li>公正・公平な事業活動</li> <li>財産権の保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントの推進</li> <li>法令遵守の取り組みの推進</li> <li>情報セキュリティの構築</li> <li>知的財産権の保護や戦略的活用</li> <li>事業継続計画(BCP)の策定</li> </ul>
<b>人</b> 人材の登用と活用において、職場環境、人権、価値観の多様性に配慮した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権</li> <li>ダイバーシティの推進</li> <li>ワークライフバランスの推進</li> <li>安全衛生の取り組み</li> <li>人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期的視点に基づいた人材育成計画の策定および実施の推進</li> <li>ダイバーシティの推進(現地人材の育成・活用、性別・人種にとらわれない人材育成と活用)</li> <li>ワークライフバランス推進のための総労働時間の削減</li> <li>安全衛生の取り組みの推進</li> <li>人権教育の実施(人権問題加担の回避、デューデリジエンスの実施)</li> </ul>
<b>品質</b> 市場のルールや規範遵守を基本に、顧客・株主・取引先等のソーシャルニーズ*に対応する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR調達</li> <li>品質</li> <li>ソーシャルニーズ*の創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質向上による顧客満足度向上</li> <li>サプライチェーンの強化(グリーン調達やCSR調達の推進)</li> <li>社会的課題をニーズと捉えた新興国におけるビジネスの推進、新規用途の開拓、新製品の開発</li> <li>製品安全アセスメントの対応</li> </ul>
<b>環境</b> 企業の環境保全の取り組み。「環境」と「経済」の両立のもとに、生態系に影響をおよぼす地球規模の環境問題を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型製品の売り上げ拡大</li> <li>地球温暖化対策</li> <li>化学物質管理</li> <li>資源の節約・生物多様性保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第四期環境行動計画の内容に基づいた目標の立案</li> <li>省エネ・省資源の取り組み</li> <li>環境法規制の動向を先取りした製品開発・代替技術への取り組み、情報収集</li> <li>製品開発時における部品点数削減や製造工数削減を実現する設計</li> <li>部材選定時における環境対応品の活用</li> <li>業務の効率化を支援する仕組みの構築</li> <li>化学物質の管理強化</li> </ul>
<b>社会</b> 地域社会から国際社会まで広くかわり、教育・文化・福利・開発など協調、協力の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な社会貢献活動による企業価値向上</li> <li>・コミュニティー交流、ボランティア活動、</li> <li>・NPO・NGOとの連携での社会課題への貢献ビジネスの推進、他</li> <li>・新興国ビジネスの推進</li> </ul>

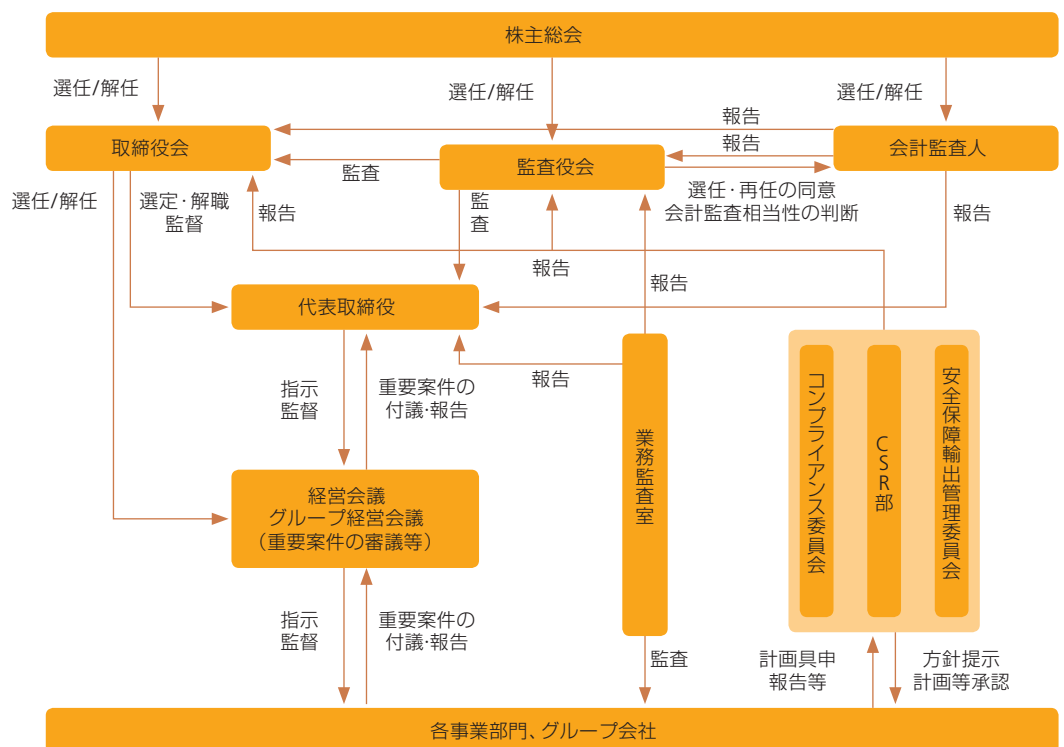
## コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

ウシオグループの基本方針は、企業経営における透明性と効率性を確保すること、および、全てのステークホルダーの皆さまの期待に応じて企業価値を増大させていくことにあります。また、そのための法令・社会的規範・企業倫理の遵守およびJ-SOXを含めた内部統制の体制確立・維持を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、これらを推進しています。

### コーポレート・ガバナンス\*

ウシオ電機は監査役会制度を採用しています。経営管理組織については、経営方針等の重要課題に関する意思決定および業務執行の監督機関として「取締役会」、業務執行機関として「代表取締役」、監査機関として「監査役会」を設置しています。さらに、ウシオ電機およびグループ全体の経営戦略や中長期の経営方針等を審議するため「経営会議」「グループ経営会議」を設け、取締役会の意思決定を支援するとともに、代表取締役の業務執行の強化や迅速性を高めるため「事業部制度」や「執行役員制度」を導入しています。

ウシオ電機内部統制図





**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/governance> (コーポレート・ガバナンス)

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/compliance> (コンプライアンス)

### 取締役会および社外取締役

ウシオ電機の実業取締役会は、社内取締役9名と独立性の高い社外取締役2名の計11名で構成されています。事業内容に精通した社内取締役による迅速な意思決定が図られる一方、経営から独立した社外取締役を選任することにより、経営監視機能を強化し、経営の客観性を維持しています。なお、社外取締役2名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員（一般株主の保護を図るため、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外役員）として届出しています。

\*ウェブサイトにて新任社外取締役インタビューを掲載しています。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2014/governance/interview.html>

### 監査役監査

ウシオ電機の「監査役会」は、5名の監査役のうち3名が独立した立場の社外監査役です。それぞれの社外監査役は、財務・会計・法律など専門の監査分野を持ち、客観性および中立性を持つ監査を実施しています。「取締役会」は、「監査役会」に対して法定の事項に加え、当社グループ全体に著しい影響をおよぼすおそれのある事項、毎月の経営状況として重要な事項等を適宜報告しています。「会計監査人」は「監査役会」に年間の監査計画書を提出して具体的な監査方針を説明するとともに、四半期・期末決算における四半期レビューや会計監査の際には監査役に対してレビュー・監査結果の要旨を報告し、「監査役会」との間で定期的な意見交換を実施しています。

\*ウェブサイトにて新任社外監査役インタビューを掲載しています。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2014/governance/interview.html>

### 業務監査

企業不祥事の未然防止および会社法・金融商品取引法の制定に伴い、内部監査の重要性が増しています。内部監査には法令・規程等の準拠性監査、内部統制の整備・運用の評価のみならず、業務改善等に視点を置いたコンサルティング機能も求められるようになってきました。ウシオ電機では、コンプライアンス監査や安全保障輸出管理の監査をはじめとするさまざまな内部監査やグループ会社の監査を実施しており、監査の品質や監査の有効性を高めるために、監査役や関連部署とは常に連携を図っています。経営上のリスク最小化と会社が目指す方向性の観点から監査テーマ、監査項目を組織の状態に応じて選定し、組織体の目標達成に向けて価値を提供できる監査になるよう留意しています。また、監査による指摘・提言事項については、対応が完了するまで定期的にフォローを行なっています。今後も経営の合理化、業務の改善、資産の保全、経営上のリスク最小化および体質改善につながる監査・提言を行なっていきます。

### コンプライアンス

コンプライアンス違反は企業や行政組織の社会的信用を根底から揺るがし、損害賠償請求や売上急減などで多大な損失を被るリスクがあることは言うまでもありません。ウシオ電機では「コンプライアンス委員会」を設置し、潜在するリスクも含めコンプライアンス懸案事項には、できるだけ早い時点で対処することなどを全社的に推し進めています。また、外部の相談・通報窓口として「ウシオヘルプライン」があります。

### 情報セキュリティ

ウシオ電機では、事業活動上で取り扱う機会が多いお客様の個人情報、お客様からお預かりする重要な企業情報などの情報資産を、漏洩や改ざんなどの脅威から確実に守ることが最重要課題と考えています。さらには、情報は価値を生む資産、企業価値を高める源泉という認識に基づき、社員の情報セキュリティ意識の向上、リスク管理など体制整備を推進しています。これらの管理では、「ルールを決める」「ルールを守る仕組みを作る」「意識向上」の三位一体となった取り組みが必要で、情報セキュリティ管理規定に基づき運用しています。今後は海外を含むグループ内でのルール均質化を推進します。

具体的な仕組みとして、IC入りIDカードを活用した事業所内一定のセキュリティエリアの確保やパソコンのウイルス対策、ディスク暗号化、業務システムの権限管理、対災害・対障害能力の強化といった対策を進めており、他にも技術文書の暗号化による漏洩リスク軽減、社外送信メールの添付ファイル自動暗号化・誤送信防止・キーワードフィルタリング機能の設定、Windows XPのサポート終了に伴うパソコン入替、パソコン資産管理ツールの入替によるセキュリティ統制、インターネットアクセス制限の強化、ファイルサーバー統合によるデータアクセスの権限強化等に取り組んできました。

情報漏洩を防止するためには社員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識とスキルを向上させることが重要と考えており、eラーニングを活用した全社教育や入社時や階層別研修を適宜実施することで、さまざまな脅威や機会に対する認識向上を図っています。2015年3月期は、さらにPDCAサイクルを回すことによる取り組みを進め、周知を徹底させていきます。

### 公正・公平な取引に向けて

ウシオグループでは、「私たちの行動指針10」の中で、取引を行なう場合には常に相手の立場と権利を尊重し、公正・公平な姿勢をもってあたり、優越的地位を利用して、不当な条件を押しついたりしないことを約束しています。また、腐敗防止に努め、社会通念に照らして適正な取引を行なっていくことを約束しています。

## 社員とともに

ウシオグループでは、企業の社会的責任の取り組みを通じて、社員がイキイキとやり甲斐を持って働くことのできる企業づくりを目指しています。企業理念の最初の項目に「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」とあることにも表されている通り、この想いは創業時から変わっていません。

### 人権の尊重

ウシオグループでは国際労働機関\* (ILO)による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。また、2010年10月には国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明し、10原則を遵守するべく取り組みを推進しています。そのほか、サプライチェーン上での人権問題を意識したCSR調達、紛争鉱物\*調査、社内の人材活用におけるダイバーシティ尊重も人権にかかわる大きなテーマとして捉えています。ダイバーシティについては、国が方針を提示していることから日本国内でも徐々に進展しており、国籍や性別などの違いによって雇用・昇進の機会に差別が生じないよう、長期的なプランを推進しています。

2014年3月期に、ウシオ電機ではランプ電極に多くのタングステンを使用する責任から、紛争地域での人権問題に配慮した“紛争鉱物\*に対する基本方針”を掲げ、本年は、事業活動における人権尊重を目指した人権教育の実施や、サプライチェーン上での人権配慮のためのCSR調達方針の制定など、すべての人権が守られる社会の実現に向けて積極的な取り組みを進めています。

### ダイバーシティ\*

#### グローバルな人材の活用

ウシオグループの所在地別売上高を見ると、海外での売上高が80%近い規模になっています。海外でビジネスを推進していくために、現地に溶け込んだコミュニケーションを行うことにより、何が求められているのかを理解し、行動できる人材が必要となってきます。そのため、留学制度の制定や海外留学生の採用をはじめ海外グループ会社からの親会社への出向やグループ会社間における人材の交流を通して、グローバルな人材の育成・活用を行なっています。

#### 障がい者雇用

2014年3月期の障がい者雇用率は、法定の2.0%に対し、1.96%とわずかながら下回る結果となりました。ウシオ電機では、トイレのドアを引き戸にしたり、階段に手すりをつけるなど、事業所のバリアフリー化などを進めるとともに、引き続き障がい者雇用の促進を図って参ります。

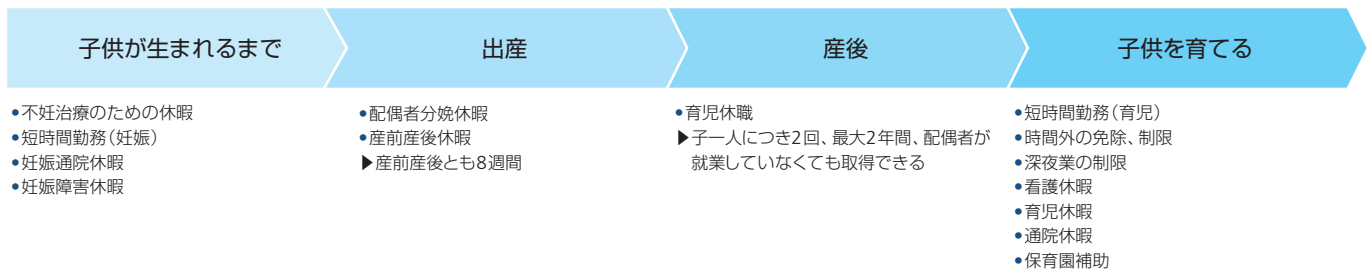
#### 再雇用制度

ウシオ電機では、高齢者雇用についても積極的に支援しています。最長65歳までの再雇用制度による雇用延長制度(シニアパートナー、シニアエキスパート制度)があり、多数の社員が利用しています。

#### 女性活躍推進

ウシオ電機では、先進国のビジネスが成熟化している中で新しいビジネスを生み出すには、新しい力が必要と考えています。近年では営業職・技術職における女性社員比率が2007年に比較し2倍以上に増加しており、管理職登用においても性別に捉われない人材の登用を図っています。さらに、2013年1月と4月には、女性社員の声を経営に届けるため、牛尾会長と女性社員の座談会を、また社員一人ひとりのモチベーションを高めるため、2014年2月には他社とウシオ電機の女性営業職交流会を行いました。ウシオ電機社員の平均勤続年数は年々伸びていますが、本年は女性が男性の勤続年数を上回り16年となりました。

## ウシオ電機の両立支援制度(仕事と子育て)



## ワークライフバランス\*

## 両立支援制度

ウシオ電機では、ライフスタイルや性別を問わない多様な価値観、働き方に柔軟に対応できる体制づくりのため、育児休業をはじめ、法定水準を上回る支援制度を整備しています。

2009年3月には仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、上司の対応方法など、制度を利用する社員および上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を発行、2011年7月には、短時間勤務制度を改正し、期間の延長および、就業時間を選択可能にしました。また、男性の育児休職取得者の体験談をポータルサイトで公開したり仕事と子育てを両立している女性社員のインタビューを社内報に掲載するなど、男女問わず両立支援のための環境の整備を行なっています。その結果、2012年6月には、3期目の「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん\*」を取得しました。また、女性の育児休職取得率および復職率はほぼ100%であり、男性も毎年複数名が育児休職を取得しています。

## 育児休職制度利用者推移

	2012	2013	2014
男性(人)	2	5	4
女性(人)	27	32	29
合計(人)	29	37	33

## 有給休暇の取得や定時退社日の制定

ウシオ電機はワークライフバランスを重視しており、家族・友人と過ごす時間や自己啓発の時間を確保し、メリハリある職場環境の構築を目的とし、定時退社日の制定や計画年次有給休暇の取得を推進しています。休暇を取得しリフレッシュすることで、心身の健康を保ち、パフォーマンスの向上につながると考えています。

## カフェテリアプラン(選択型福利厚生制度)

社会環境の変化やライフスタイルの多様化と共に社員のニーズも多様化していることに合わせ、2014年4月に社員自らが自らの使いたい福利厚生メニューを幅広く選択・利用できる制度「U's Club(ユーズクラブ)」を導入しました。

会社が運営する制度と福利厚生代行会社の提供するサービスとの連携により、これまでの会社制度以上に選択肢(育児・介護・健康・自己啓発等)を拡充し、社員一人ひとりがより充実した有意義な生活を送り、また仕事においても一層力を発揮することができるようバックアップしたいと考えています。

## 人材の育成

## 人材育成教育研修や現場に根ざした人材育成

企業理念に書かれている「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」の実現に向け、さまざまな教育制度を設け自立した人材の育成を目指しています。また各部門や職種別に必要とされるスキルの見直しを行ない、体系化し、人材の育成や評価に役立つ仕組みを拠点別に行なっています。職種を問わず、常に問題意識を持ち、過去にとらわれない発想で、独自性のある提案と行動ができる人材の育成が求められています。

## 自己啓発援助

**ビジネス英会話スクール:**グローバルに実績を残せる人材となるべく、共通の土台となる英語力向上の支援をしています。受講希望者の語学カ別に1クラス3~6名で事業所ごとの運営とし、外部講師(日本人とネイティブ)を社内会議室へ招いて、週1回、就業時間終了後に実施しています。2013年10月より開始し、半年で合計28名が受講し、受講者から高い評価を得ています。

**TOEIC検定:**社員が自己の英語レベルを把握し、レベルアップを図ることを目的として、希望者にTOEIC試験を実施し、検定料の一部を会社が援助しています。当期は延べ125名が受検しました。

## シスター・ブラザー制度

新入社員が配属された後、1年間先輩社員が指導者となり、日々の仕事の指導に加え会社生活で困ったことや個人的な悩みなども含めて、新入社員の成長をマンツーマンでバックアップする制度です。また、熱意のこもった新人指導に繋げるため、先輩社員に対してはシスター・ブラザー研修を実施しています。先輩社員と信頼関係を築くことができるなど新入社員も安心して働くことができ、新卒入社3年目の定着率向上にも繋がっています。

## お客さま・お取引先さまとのかかわり

ウシオグループではお客さまのニーズを的確に捉え、お取引先さまと一体となって製品の開発・品質の向上を進めることで、「当たり前品質」の上を行く「魅力的品質」を備えた製品・サービス、新たな価値を提供していきます。

### 品質方針

ウシオ電機では、全社統一の品質方針を制定し、品質の向上に力を入れています。

### UPS (USHIO Production System)

#### 基本理念

ウシオは製品の品質を最優先と認識し、世界のマーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品とサービスをタイムリーに提供し、顧客の要求に応えます。

#### 行動指針

1. お客様第一、品質第一に徹して、最新技術で、魅力ある商品を開発して、顧客の要求と信頼に応えます。
2. 顧客のニーズを満たすため、品質マネジメントシステムを全社へ展開し、その有効性の継続的な改善に取り組み、さらなる品質の向上に努めます。
3. 顧客との情報共有化を図り、コスト改善、新製品開発、新規市場開発を行い、世界マーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品をタイムリーに提供します。

2014年10月1日  
ウシオ電機株式会社  
代表取締役社長  
浜島 健爾

ウシオ電機 播磨事業所では、2012年3月期から独自の新しい生産方式の確立を目指し、UPSと呼ばれる取り組みを開始しました。事業環境の激しい変化の中で、どのような環境にあっても高品質な製品を効率よく提供するためにはこれまでのやり方を踏襲し決められた枠の中で改善を積み重ねるのではなく、従来から培って来た改善活動(UPS、TPM\*、TQC\*)を統合し、多角的視点から改善を進めています。

UPSは「社員一人ひとりの自発性や熱意をもって、創意工夫により仕事の欠陥をなくしていく」

ZD(ゼロ・ディフェクト)活動を基盤とし、「製造技術グループ」、「品質システム改善グループ」、「教育・啓蒙グループ」の3本の柱から構成されていた従来の活動を事業所内で再編を行い、2014年4月からは改善の具体的活動実施として「事業所内全員参加」「見える化」を徹底した事業所内の小集団活動という展開を新たに始めました。事業所内では91集団が結成され、活動の

リーダーには女性や若手社員も積極的に活用されるなど、具体的な改善活動の推進とともに自主的な管理を促す人材育成、現場の意識改革にも寄与した活動となっています。

これらの活動により、見える形でのものづくりの基盤確立、効率化、職場の活性化や活動の継続化などを狙っています。

### カスタマーサービスセンターの取り組み

カスタマーサービスセンターでは、お客様での装置の安定稼働、顧客満足度を第一に考えタイムリーな安心、安全の提供とともに、お客様から頼りにされる存在であり続けたいと願っています。近年では、当社の装置製品の最終ユーザー様が海外を中心に展開を進めている背景もあり、韓国、台湾、中国拠点との連携にて、現地でのサービス体制の充実化が進んでいます。医療機器など扱い製品群の拡大とともに、提案型サービスの充実化が必要を増しており、製品販売との連携も深めつつ、これからもさらなるお客様満足度向上にチャレンジしていきます。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/customer> (お客さまとともに)

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/supplier> (お取引先さまとともに)

## 品質保証センターの取り組み

2013年4月より、従来事業所毎に設置されていた品質保証部門を統合し、品質保証センターを発足しています。これによりウシオは、各事業所に展開されていた品質維持ノウハウの“良い所取り”を促し、さらなる魅力的品質と効率化の両立を計っています。これは、近年ウシオ製品に次々とラインナップされる医療機器に求められる非常に高い品質に応えるもので、これまでの工業製品向けで培ったノウハウを活用しISO13485(医療機器の品質保証のための国際標準規格であり、品質マネジメントシステムであるISO9001から内容が変更され、医療機器固有の要求事項も付け加えられている)を意識した活動を強化することで、今後は海外生産関連会社などとの連携を深め、グループで統一する品質保証体勢づくりに取り組んでいきます。

## グリーン調達、国際環境法規制対応の推進

多様化する海外の法規制に対し、安定的で円滑な製品供給を実現するため、タイムリーな情報収集と対応を重視したバリューチェーン構築に取り組んでいます。調達方針、グリーン調達基準、RoHS、REACH規制対応協力など、お取引先様との相互理解を深めるための説明会も実施し、納期・品質に関わるトラブル回避などのお取引先様との対話を重視した取り組みを継続的に実施し、トータルな顧客満足度向上を目指しています。

近年では、RoHS規制対応への要求が高まっており、取り組みを強化しています。

## 製品を通じた貢献

産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、時代の要求に応じた製品展開を推進しています。近年では企業の社会的責任を果たすためのテーマとして、本業を通じた社会貢献を掲げており、様々な分野における課題を光のアプリケーションによって解決する製品を積極的に投入しています。

2014年3月期は、製品開発段階より環境アセスメントを実施したスーパーグリーン製品\*の範囲を大きく広げ、製品の性能を一新する取り組みを強化しています。ウシオは、これまで培ってきた光技術を応用・展開することで、地球規模での医療、健康、環境、エネルギー、水、セキュリティ、食糧などの課題にソリューションを提供し、同時に顧客ニーズに応える付加価値の高い製品とサービスを提供していきます。

## バイオ・メディカル、QOL改善に関わる製品展開

本年度より、バイオ・メディカル事業部が独立部門となりました。エキシマライト光線療法機器であるセラビームUV308\*からスタートした医療機器向け展開から各種メディカル系の認可を取得した後、さまざまな事業インフラを整えて参りました。

血液分析装置であるポイントリーダーでは、以前からの血清フェリチン定量測定や、途上国での風土病対策などの用途に加えて、動物血液診断などにも活用できる用途を新たに開拓し、継続的に可能性の幅を広げています。現在では、医療機器に関わる製造、販売、修理と、医薬品の製造、販売、そして動物医薬品製造などのインフラ整備を進め、QOL改善に貢献する多様な光の価値提供のための素地を整え続けています。

## CSR調達の推進

2013年3月期よりグリーン調達委員会をCSR調達委員会とあらため、CSR行動計画の一環としてグリーン調達を実施しています。2014年3月期は、お客様から当社へのCSR取り組みへのご要望の分析を実施しました。2015年3月期は、CSR調達をさらに確実にすべく、CSR調達方針を策定しました。

## 紛争鉱物\*調査

米国証券取引委員会(SEC)による金融規制改革法の紛争鉱物条項に基づき、2012年8月、米国の証券取引所に上場している製造業者等に、コンゴ民主共和国および近接諸国で産出された紛争鉱物(タンタル、スズ、金、タングステン)の製品への使用に関する開示と報告を義務付ける最終規則が採択され、2013年1月から法が施行されました。ウシオ電機は、電極部材に多くのタングステンを使用するため、お取引先様への材料使用状況の調査を強化するとともに、EICC/GeSIテンプレート\*を使用した調査も開始しています。

また、2013年11月に紛争鉱物に対する基本方針を策定、グループ会社のウシオライティングも同期を図るなど、グループ内での連携を推し進めています。

## BCP\*への取組みについて

私たちは、2011年の東日本大震災によって、たった一つの部品の供給不能がもたらす、産業全体への影響についてたいへん大きな教訓を得ました。ウシオ電機の各種産業用光源もまた、非常に高い市場シェアを有するものが多く、お客さまに対する製品の安定供給に大きな責任があるため、BCPの積極的な推進を行なっています。

2012年4月より全社組織の専門委員会を立上げ、災害発生時の減災及び復旧の迅速化や他拠点との連携の仕組みなどの構築の取り組みを始め、光源事業を中心とした事業継続計画書の策定を経て、2014年4月に「ウシオ電機株式会社BCP(事業継続計画書)」を策定しました。情報セキュリティの一例では業務システムの対災害・対障害能力、ネットワークインフラ、社内データ資産管理の強化などを前進させており、トータルでの安定性確保に取り組んでいます。

## 環境への取り組み

ウシオグループでは、サステナブルな地球環境の実現に向けて、2020年にあるべき姿を描き本業を通じた取り組みの強化を行なっています。

### 2020年環境ビジョン

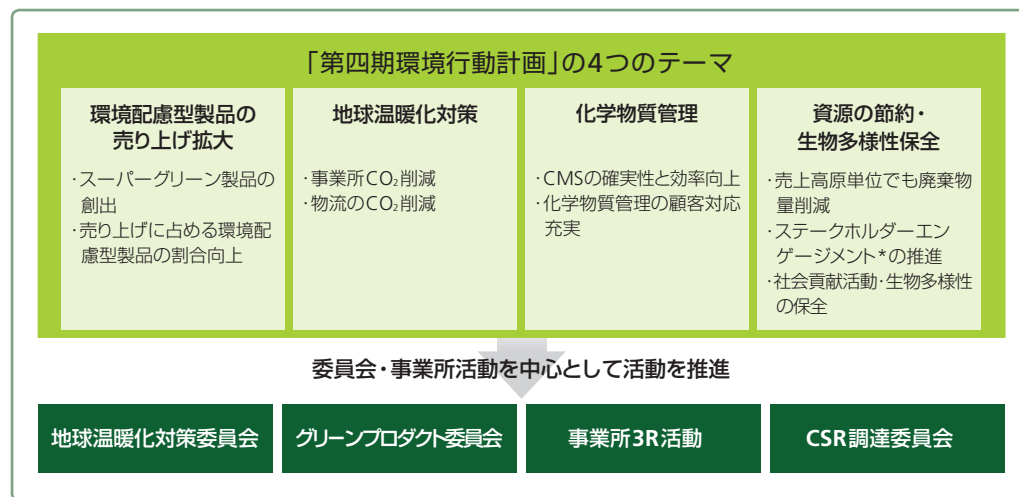
ウシオグループでは、2020年に「低炭素型社会\*」「循環型社会\*」「生物多様性社会\*」の3つを実現するために、事業を通じて社会に貢献できる企業になりたいとの想いで「2020年環境ビジョン」を策定しており、2013年4月からは、第四期環境行動計画が進行中です。

### 第四期環境行動計画

第四期環境行動計画の目標設定に当たっては、東日本大震災後の電力供給実態を踏まえ、電力不足を前提とした生産効率性を重視し、以下の4つの重要テーマを策定しました。特に、事業所でのCO<sub>2</sub>削減と電気製品としての貢献、およびそれら周辺のマテリアルデータベースやスーパーグリーン製品の展開を重視しました。

また、第三期において着実に開発を実施したLEDなどの環境配慮型製品を、実際の売り上げ増加に結び付ける活動の強化、および化学物質管理は、国際基準への準拠と定着をめざしています。グループ会社との連携においても、一層のレベルアップを図ります。

当期の活動と進捗の詳細については、ウェブサイトにおいて報告しています。



### SCOPE 3\*への取り組み

これまで企業には、事業活動で発生する直接的なCO<sub>2</sub>の排出量や電気使用などでの間接的に発生するエネルギーの正しい把握、およびその削減努力が求められていましたが、CDP\*など社会要求はその製品が使用される環境などバリューチェーン\*全体でのトータルなエネルギー消費というさらにインパクトが大きい要素に対して、企業の正しい認識と改善努力を要求するようになりました。この状況で2014年3月期よりSCOPE 3要求でのエネルギー消費カウントを開始し、今後は集計、改善活動の対象をグループ各社へと広げて参ります。バリューチェーン全体へ視野を広げ、より良い環境活動を目指すための第一歩となりました。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/environmental> (環境経営)

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/energy> (地球温暖化防止への取り組み)

## 清潔生産企業認定を取得



2013年9月ウシオ蘇州は、蘇州環境保護局および蘇州新区経済発展・改革局より中国内の全企業を対象とする「清潔生産企業」の認定を受け、中国政府からも正式に公示されました。事業所内設備の自動化による生産性アップと照明用蛍光灯の交換などによる電力消費の減少、およびその他の自主的な省エネ活動などが評価されたものです。

## ウシオ電機事業所のCO<sub>2</sub>排出量削減

当社は、第四期環境行動計画の4つのテーマのひとつに、地球温暖化対策を掲げています。当期は、事業所および物流におけるCO<sub>2</sub>削減の取り組みとして、2012年度比売上高原単位1%削減を目標として、各拠点で照明器具のLEDへの転換などを進めた結果、2012年度比売上高原単位で9.5%削減することができました。

当社では「2020年環境ビジョン」の先を見据え、引き続き現状のCO<sub>2</sub>削減努力(年率1%)を維持し、2025年までの10年間で10%の削減を目指す考えです。

## 各拠点で照明器具をLEDに交換

### 当社広告塔をLEDにリニューアル



兵庫県姫路市は、ウシオの発祥の地であり当社最大規模の播磨事業所が位置しています。50周年を機に、このJR姫路駅前の広告塔をLEDに変更しました。今回採用したのはウシオライティングの防水型LEDモジュールで、新しいUSHIOロゴのあんどんにはハイパワー・広配光角モジュールを615個、バックライトには狭幅・薄厚

LEDモジュール2,022個を使用しています。これにより、消費電力は蛍光灯の約3分の1になり、光源は10年間交換不要となりました。

## 横浜事業所

横浜事業所では、照明に使用している蛍光灯のLED化を段階的に進めています。現在は応接室や会議室などの事務フロアを中心に、半期毎に100本程度の計画で順次交換しています。

## USHIO PHILIPPINES, INC. (UPI)

UPIでは照明にかかる電力が全体の電力使用量の約10%程度近くになっていたことから、省エネ活動の一環として、従来の蛍光灯(72W)からLED(20W)への変更に着手しました。工場内に約1,800本あるすべての蛍光灯を順次LED化する計画で、大きな省エネ効果が期待されています。

## TAIWAN USHIO LIGHTING, INC. (TULI)

TULIではこのほど、約50%のラインを従来の40W蛍光灯から26WのT5蛍光灯へ、残り50%のラインはさらに省エネ効果の高いLED灯へ変更し、ランプ生産ラインの変更を完了しました。T5蛍光灯とLED灯は混合して使用しても見た目も明るさも変わらず、工場内は一樣の光となっています。

## USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD. (UAP)

UAPでも、オフィスの蛍光灯をLEDに変える取り組みをはじめました。オフィス全体で80個ある蛍光灯の取り換えが完了し、次は倉庫の蛍光灯を取り替えていく計画です。

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. (CDSU) と USHIO AMERICA INC. (UAI) 太陽光発電導入



このほどCDSUとUAIでは、3つの社屋の屋上に併せて2,190枚の太陽光発電パネルが設置され、初年度は、約832,981kWhを発電する見込みです。発電状況をモニターするシステムが設置されており、モニター内容はインターネット上で閲覧できるほか、CDSUとUAI両社のロビーに新設されたマイクロタイル ビデオウォールで見られるようになります。ロビーに表示することで、来客や社員が太陽光発電の状況や、二酸化炭素削減量を容易に一覧でき、省エネ意識の向上の一助にもなると考えています。

## 社会とのかかわり

国際社会の一員として、それぞれの地域社会の発展に貢献するような取り組みを行っていきます。ウシオグループの国内外での拡大で事例も多く増えており、持続可能性の大きな要素である教育、文化、被災地支援や地域交流と、掲載内容以外にもさまざまな活動に取り組んでいます。

### 公益財団法人 ウシオ財団



「ウシオ財団」は、1994年にウシオ電機創立30周年記念事業として設立され、2014年に設立20周年を迎えました。グローバル化が進む中で、当財団では海外留学生も含み次代の世界を担う人材の育成に寄与し、諸

外国との交流と相互理解を増進することで社会に貢献しています。

2014年3月期は、大学院生(留学生含む)40名、高等専門学校専攻科生11名に奨学金を支給しました。これまでに採用した奨学生の数は457名を数え、今年も引き続き被災地の学校を優先的に募集しました。

### ウシオ電機

#### 本社、東京営業所にてファミリーデーを開催

2014年8月7日、本社および東京営業所にて、初の家族参加型イベント「ファミリーデー2014」が開催されました。参加されたご家族からは、「製品の説明を聞き実際に触れることで、ウシオのことを理解する良い機会になった」などといった声をいただきました。

#### 播磨、御殿場の2事業所で工場見学会



社員の子どもたちを対象に、播磨では2013年8月9日に「夏休みごども参観日」、御殿場では2013年8月30日に「ご家族見学会」を開催しました。大きな機械がたくさんある場所、パソコンが並ぶオフィス、そし

てお父さんやお母さんが仕事をしている様子などに、子供たちは興味津々の様子でした。また御殿場では親御さんの参加もあり、よいコミュニケーションの場となりました。

#### つくばScience Edge2014に参加



ミニエキシマを使って実験

2014年3月21日、ウシオ電機はつくば国際会議場にて開催された「つくばScience Edge2014」に参加しました。中学・高校生が科学に関するアイデアを発表するコンテストの後行なわれるワークショップでは、当社は参加者全員にミニエキシマ

装置を使った「光接合」を実際に体験してもらいました。接着剤なしに光のみで異材料同士を接合する仕組みを実験することで、光の可能性に触れてもらえたと思います。



Web <http://www.ushio.co.jp/jp/contribution> (地域社会とともに)

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/society> (社会貢献活動)

## 被災地支援マルシェ



2014年3月14日、本社および東京営業本部が入居しているビルにて「被災地支援マルシェ」が行われ、今年も多くのの方々にご来場いただきました。3回目の開催となる今回も、岩手・福島・宮城の3県のアンテナショップが出展したほか、岩手県沿岸南部に位置する大槌町からも「おらが大槌復興食堂」が出展しました。三陸沖の名産や地元女性たちが復興への思いを込めて作った「刺し子Tシャツ」などを販売し盛況でした。

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. (CDSC)

### CHRISTIE コミュニティーガーデン



2013年4月、CDSCは全従業員を新しいプロジェクト「ヘルス・ウェルネス・グリーン イニシアチブへの参加促進」に招待しました。敷地内に作られた「CHRISTIE コミュニティーガーデン」には、約30名のボランティアによって造園所より55立方ヤードの新しい土が持ち込まれ、雨水を貯めるためのカスタムメイドの貯水槽と、必要な道具などを保管する倉庫が準備されました。多くの種類の野菜や花が見事に育ち、当事業所の新たな名所となっています。

### 地元ブルーベールカレッジの電気自動車レースをサポート

2014年5月、地元の高校生とブルーベールカレッジの学生が結成したブルーベール・CHRISTIEチームは、電気自動車協会(NECA)内において、自分たちで設計・組み立てを行った電気自動車レースに参加しました。CDSCは、資金だけでなく設計と生産技術の提供も合わせて、このチームを支援しています。

## 学用品バックパックキャンペーン第二弾



2013年夏、CDSC 従業員は、グローバルインテリア財団と協働で、スタントン市(CHRISTIE USAのあるサイプレス市に隣接する市)の子供たちに、学用品で満たされたバックパックを寄贈しました。今回は45個のバックパックを購入することができました。

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. (CDSU)

### カリフォルニア・サイプレス高校のFBLAプログラムへ寄付

FBLA (Future Business Leaders of America)は、ビジネスならびにビジネス関連分野での将来のキャリアに備える25万人の学生からなる非営利的教育団体で、学生が持っているビジネスの知識ならびにスキルを競い合う大会を開催しています。今年は、サイプレス高校生のFBLA全国大会への参加をサポートしました。

### 飢えに苦しむ子供のための食品包装に参加

CDSUは、昨年に引き続き「Stop Hunger Now」と呼ばれる人道的食糧支援団体の奉仕活動を支援しました。今年はおよそ80人の従業員によって、13,196食パッキングすることができました。これらの食事は、「International School Feeding Program」のもと、中央アフリカや東南アジアの施設ならびに学校へ送られました。

## USHIO AMERICA, INC. (UAI)

### リレー・フォー・ライフ\*

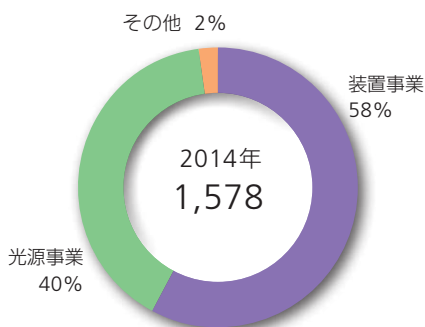


ルミナリエで各チームが火を灯してから空に放った「ドリーム・ランタン(夢ちょうん)」

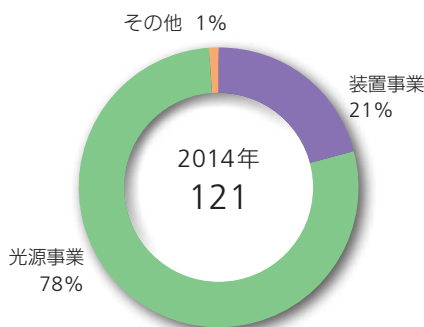
オレゴン工場のウシオエンジェル\*は、2013年6月に開催された米国癌協会の「リレー・フォー・ライフ」に参加しました。1年間でオレゴン工場内の募金活動で集まった寄付金はおよそ2,045ドル(約20万円)になりました。

# 事業概況

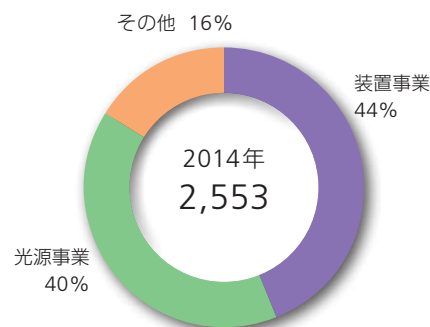
売上高構成比  
(億円)



営業利益構成比  
(億円)



資産構成比  
(億円)



## 装置事業



### 映像装置

- シネマ用デジタルプロジェクタ(DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクタおよびシステム(コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティ)など

### 光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置(露光装置、光配向装置、光硬化装置、検査装置など)
- 紫外線皮膚治療器、血液分析装置など医療機器
- 検査・開発用EUV光源

## 光源事業



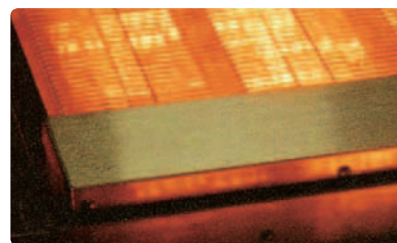
### 放電ランプ

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用UVランプ
- シネマプロジェクタ用、データプロジェクタ用、OA機器用、照明用など各種ランプおよび産業用LED

### ハロゲンランプ

- OA機器用
- 照明用(商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- ハロゲンヒータ

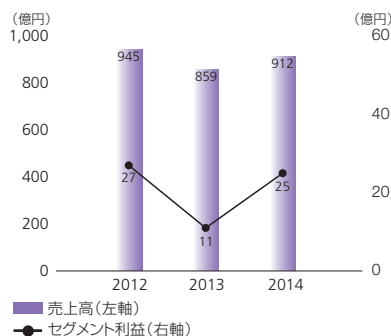
## その他



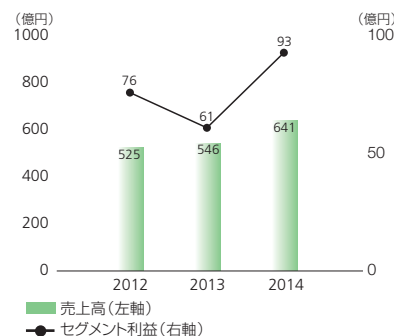
### 産業機械・その他

- プラスチック成形用途、周辺機械
- ファクトリーオートメーション
- その他

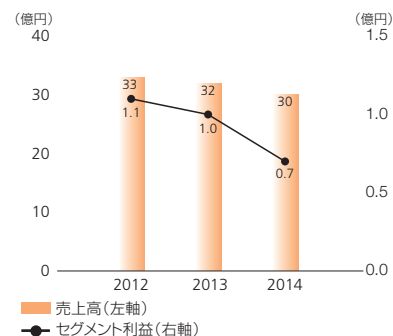
売上高/セグメント利益



売上高/セグメント利益



売上高/セグメント利益



## 会社概要

設立 1964年3月  
 資本金 19,556,326,316円  
 代表取締役社長 浜島 健爾  
 本社 東京都千代田区大手町2-6-1

従業員数(2014年3月31日現在)  
 ウシオ電機本体 1,793名  
 国内グループ計 588名  
 海外グループ計 3,089名  
 合計 5,470名

## 第三者意見

2014年10月に経営トップの交代が発表され、CSRやサステナビリティにかかわるスタンスがどのように継続され、また進化するかについて期待を持って本報告書を読ませて頂いた。今回の報告書から読み取れる大きなポイントは、①継続的なトップ主導のCSR推進体制の構築（CSR課題の経営戦略への組み込み）、②CSRを軸としたサプライチェーンマネジメントの推進、であり、CSR担当部署への聞き取りからは、③社内マネジャー層と部長層のリスクマネジメント教育への「グローバル社会における人権」への組み込み、④非財務情報の開示に向けた統合レポートの作成準備の進展、等を確認することができた。以下では、①と②を中心に、今後の展望と課題を交えてまとめておきたい。

### 経営戦略とCSR課題の融合

過去の第三者意見でも述べたように、CSRやサステナビリティを推進するにあたって、経営トップのメッセージやリーダーシップは不可欠な要素である。とくに、資金調達から製造、流通、販売という一連の流れがグローバル化し、ウシオの連結売上高の約8割が海外を占める状況において、グローバル市場における新しいルールやスタンダードを理解し対応していくことは重要である。その意味でも、米国での豊富な経験を有する新しい経営トップのメッセージにはグローバルな視点が加味されており、今後のCSR経営の推進と進化に期待ができる。また、次年度以降は、そのトップメッセージを受けて、各セグメントの責任者がCSRにかかわる現状や課題を自らの言葉で発信していく事も必要だろう。なぜなら、ウシオでは、P13にあるように「2016年までにウシオの経営戦略とCSR課題を融合させることを目指したCSR中期計画が進行中であり、トップ主導のCSR中期計画が、現場の各セグメントでは現在どのような状況であり、どのような課題に向き合っているのかを、現場の声をもとに整理し、明らかにしておく事が大切だからである。

### CSRを軸としたサプライチェーンマネジメントの推進

上述したように、同社ではCSR調達の取り組みが着実に進んでいる。具体的には、同社ではランプ製品の電極部材に多くのタンク

ステンを使用している関係で、2013年11月に「紛争鉱物に対する基本方針」を設定している。これは責任ある現材料調達を求めるグローバルな潮流の中での対応であるが、今後は生産拠点での紛争鉱物調査の体制づくりを本格化するとともに、直接のサプライヤーのみならず、2次、3次というサプライチェーン全体にCSR調達の意義をウシオが模範となり伝えていくリーダーシップに期待したい。もっとも、エレクトロニクス業界におけるサプライチェーンの透明性を担保し、トレーサビリティを確保することは骨の折れる作業であることは間違いない。こうした課題に立ち向かうためには、専門家集団としてのNPO/NGOや行政、大学研究機関などの多様なステークホルダーとのエンゲージメントは効果的であり、また既存の鉱山企業の社会的・環境的取り組みとの連携や業界横断的な取り組みも必要であろう。投資家のみならず多様なステークホルダーからの意見を真摯に受け止め、それらを経営にフィードバックし、その結果を開示していくという地道なプロセスこそが、ウシオ電機の持続可能性を高め、ステークホルダーからの信頼を勝ち取る鍵となると信じている。



法政大学大学院  
人間社会研究科 准教授

土肥 将敦

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より現職。商学博士。著書に『CSR経営 - 企業の社会的責任とステークホルダー』（共著、中央経済社）、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版）などがある。

## 第三者意見を受けて

法政大学大学院准教授土肥将敦先生から、昨年に引き続き「サステナビリティレポート2014」に対し、ご意見をいただきました。心より感謝申し上げます。土肥先生には、当社のCSR、サステナビリティの取り組みと進捗に対して高い評価をいただくとともに、「経営戦略とCSR課題の融合」、「サプライチェーンマネジメント」について具体的なご指摘と課題を頂戴しました。CSR推進活動は、引き続きCSR課題を事業計画へブレークダウンすることで実行し、

ウシオ電機株式会社 取締役 CSR担当 小林 敦之

またグローバル調達・市場に 関係する様々なステークホルダーの考え方・価値観をフィードバックして、弊社の企業価値向上と持続的成長の原動力としてまいります。

巻頭の特集の通り、当社は今年4月1日に創立50周年を迎えました。これまでの50年から、これらCSR課題の取り組みによって、これからの50年を創っていく指針にしたいと思っています。



2014年4月1日、おかげさまでウシオ電機は**50周年**を迎えました。

50周年記念サイト公開中

<http://www.ushio.co.jp/50th>

ウシオ 50周年

検索

スマホはコチラから



発行：ウシオ電機株式会社

リスクマネジメント室 CSR 担当

〒225-0004 神奈川県横浜市青葉区元石川町6409

Tel: 045-872-2812 Fax: 045-872-2814

[www.ushio.co.jp](http://www.ushio.co.jp)



COMMUNICATION ON  
PROGRESS

This is our **Communication on Progress**  
in implementing the principles of the  
**United Nations Global Compact** and  
supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.